

書写からひろがる, まなび, 暮らし

line

糸

Special Interview

川柳作家

やすみりえ



本資料は、「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

CONTENTS

line 線

Special Interview

心から湧き出る想いを綴って表現していく。 03  
やすみりえ

これからの国語を考える

アクティブ・ラーニングと書写指導 連載 第三回 06  
尾崎靖二

書写のココが知りたい!

Q. どうすれば筆を長持ちさせられますか? 08  
宮本榮信

書写力向上宣言

「今日から変わる書写指導」 10  
セミナーレポート

指導のミカタ ①

楽しく学ぶための工夫 12  
兵庫県神戸市立高津橋小学校 川岡嘉則先生

指導のミカタ ②

楽しく学んで苦手意識をなくそう 14  
和歌山県那智勝浦町立下里小学校 温水起美好先生

指導のミカタ ③

別人になりきって書こう 16  
大阪府枚方市立蹠跽東小学校 藤井美和子先生

関岡猪蔵先生を偲んで

一期一会 18

連載 第九回

コンドウアキの書写的生活 20  
コンドウアキ

COVER design ART WORK

日本の伝統文様



【立涌文】

たてわくもん/たちわきもん

立涌文は、立粋(たちわぎ)文ともいわれ、2本の曲線を用い雲気、水蒸気が湧き立ち上っていく様子をあらわす、有職文様の一つです。

川柳作家

# やすみりえ

Rie Yasumi

心から湧き出る想いを  
綴って表現していく。



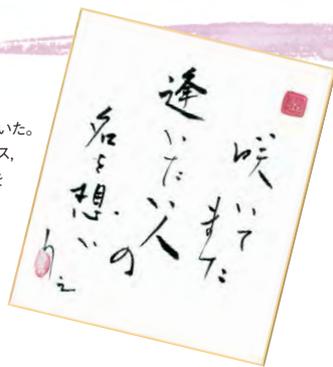
——神戸で過ごした学生時代はどんなことに興味がありましたか？

幼稚園や小学生の頃は、家の中で遊ぶことが好きで、人形やぬいぐるみを集めるなど、女の子らしく過ごしていました。中学生や高校生くらいには、早く大人になりたいという気持ちが強く、行動力のある人になりたいと思っていました。女子大生時代は「色々な人に会う、色々場所に行ってみる」ということを心がけ、故郷の神戸で民間の親善大使「神戸 SEA QUEEN (シークイーン)」を務めました。様々なイベントで神戸市内を巡り、色々な世代・国籍の方とも交流しました。本当に良い経験だったと思います。

——いつ、どんなきっかけで川柳に関わることになったのですか？

大学を卒業し、自分にはどんなことが向いているだろうと考えていた二十代前半に、川柳に出会いました。友人がプレゼントしてくれた川柳の本、句集を読んで「五・七・五とコンパクトにまとめている中に言い得て妙なことがたくさんある！」と感動したのがきっかけですね。それは恋愛の五・七・五で、とても興味深く、共感できるものが多かったのですが、例えば〈追伸に女心のありったけ〉のように人生の手引書のように感じたのを覚えていきます。

代表作の川柳を色紙に書いていただいた。文字と文字のバランス、紙面全体の雰囲気も大切にされる。



——ご自身が詠んだ句について、思い出に残るエピソードはありますか？

私の作品で「咲いてまた逢いたい人の名を想い」という句があります。これは十年以上前に、満開の桜を見て詠んだ恋の句なのですが、特に神戸や阪神間の方から「阪神・淡路大震災に寄せて詠まれたものですか？」と聞かれることが何度ありました。私としては個人的な恋の句として詠んだものが、人によっては世の中の大きな出来事と絡めて味わってくれたのだと思うと、すごく驚きで。「咲いてまた」は一度散ってしまった、失ってしまったものに改めて出会う、生まれ変わる…そういう時に一緒に乗り越えた人のこと、会えなくなってしまうた人のことを思うという風にも取れるのかと。

自分が詠んだ句を手放した瞬間、受け取ってくれた方が物語や彩りをつけてくれるんだなと思うと、句を詠むことって見えないうつながりを持つることなのかなという発見をしました。

——川柳を通じた活動が、文化庁の文化審議会委員につながっていくのですか。

そうですね。文化審議会では、今、文化芸術推進基本法をより一層豊かなものにするための話し合いをしています。それは二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックに向けて、スポーツだけじゃなく、日本の文化力・芸術力を底上げしていこうという目標を持って進めています。例えばロンドンオリンピックはその色合いが強かったようで、イギリスは昔

から文化力のある素晴らしい国ですが、今の時代に合ったものも含まれて、さらに文化力が底上げされたそうです。そういうことを日本も目指そうということになっています。

その中で私が興味深いと思ったのは「日本の風土を大切にしながら」という一文が、全体の枠組みを説明する文章の中に入っていることです。風土という言葉、とても興味深いんですよね。日本の津々浦々、大なり小なりの伝統文化や言葉に焦点を当て、すくい上げていくというイメージが浮かび上がります。そういった文言が文中に見られるのは、一度立ち止まって古き良きものをもう一度見直してみましようということが含まれているのかな、これまで私がやってきた活動と絡めていけることがあるのではと気づかされます。



——日本各地には、その土地特有の文化や言葉使いがあります。

例えば、全国の小・中学校を「言葉について考えるワークシヨップ」で回ると、いわゆる方言よりもさらに限定的な、その地域独自の言葉を耳にすることがあります。そこで、二世帯・三世帯廻った方々が使っていた言葉に注目して、地域の方に聞いたり、図書館で調べたりしておいても良かったりして「その言

葉を使って五・七・五で表現してみましよう」と川柳へ結びつけることが可能です。その風土を実際に感じながら、古き良きものを織り交せて表現する楽しさを味わうことにつながります。

また、私は二〇〇九年から文化審議会国語分科会の委員もさせていただいています。当時は常用漢字表の改訂に取り組んでいましたが、現在はコミュニケーションと言葉（日本語）を検討しています。私が携わっていることというなら、川柳や俳句には句会があります。一人で作って楽しむのではなく、自分の作った五・七・五を見せ合って感想や意見を言い合ったり、時には句を一緒に作って考えたりするなど、言葉でコミュニケーションを取る場所なんです。このような文芸の魅力が何かのヒントになるのではと考えています。

——句会は、小学生でも可能ですか？

可能です。友だちの作品について感想や意見を述べるのは、とても気を使うことですが、自分が感じたことを素直に伝え合うことはお互いに大切なことであり、言葉のチョイスの仕方でも勉強になるのではないのでしょうか。句会に初めて参加する方や慣れない方は、感想を求められてもどう表現すればいいかわからず、他の方が聞いていると思うと、思ったように言えなかつたりするのですが、慣れてくるとほめ方もアドバイスも上手になります。デイベート力がつくのでしょね。川柳を楽しむ場で様々な表現力を養うことができると思ったら、一石二鳥です。



——子どもが詠んだ句を上手にほめるには、どうしたらいいのでしょうか？

句に限らず、例えば料理を作った、絵を描いたとして、誰かに感想を言ってもらえたら嬉しいですね。素直に「美味しいね」「上手に描けたね」など、まず一言、素直な感想を伝えるといいのではないのでしょうか。私ならその後で「この句はどういう想いから作ったのですか？」と聞きます。やり取りを繰り返すうちに、その作品を十分味わうことになるのではないのでしょうか。何も感想がないのが一番悲しいですよ。

——川柳の魅力は、どんなところにありますか？

川柳は、約二百五十年の歴史があり、庶民の詠んだもの、言い得て妙な、納得の名句、

後世に残したい作品が多くあります。例えば〈子が出来て川の字なりに寝る夫婦〉などは情景が思い浮かぶし、表現力がありますよね。寝ている親子がちょうど川の字に見えたというのとはとてもいい目の付けどころ（笑）

一方で、ダジャレや流行語がただ入っている五・七・五も川柳とよばれてしまう場が時々見受けられるので、それを我々がうまく方向修正していきたいなと思います。そして、味わいのある川柳が教科書に載ってくれたらいいなと思っています。

——川柳以外で、たとえば特技や趣味はありますか？

幼稚園から小学校六年生まで、書道教室に通っていました。高校では書道サークルに所属し、そこで色々な作品作りに励みました。それがとても楽しかったので、書くことが好きなんだと思います。

例えば、高校の文化祭では、自分で和紙に絵の具で色を染めるなど、まず、紙からアレンジし、そこに句を書いて、作品として貼り出しました。それがどんどん溜まっていくので、折りたたみ式の作品集になって。自分の作品が形になる楽しさや充実感を通して、やはり書くことは表現なんだと感じましたし、何よりかけがえのないものになりましたね。自分の気持ちを一文字一文字に込め、そして一つの作品としてまとめることができたからこそ、今も筆を持って書いてみようという気持ちを手放さないでいられるのかもしれない。

——文字を書くとき、気をつけていることはありますか？

私は、短冊や色紙に書くときは、余白がどれだけ生きるかをイメージして書きたいと考えています。それを意識するかしないかで、一枚の短冊や色紙を後から眺めたときの雰囲気随分違うのではないのでしょうか。十七音で表現していない部分に、あえていわなかった言葉、説明しなかった場面があるのと同じで、余白は大切です。

あとは、筆記具にも気を配ると気分よく書けますね。その時々目的、自分の心の方向に合った筆記具を傍らに。手書きにフィットする用具を探すことも楽しいことではないでしょうか。

——最後に、読者にメッセージをお願いします。

川柳は十七音のメッセージです。ぜひ気軽に一句詠んで、どなたかにプレゼントしてみたいかがでしょう。「ことば」は「こころ」。日頃からそう思いながら、これからも川柳の道を進んでいきたいと思っています。



## やすみりえ

川柳作家。神戸市出身。恋を詠んだ作品が幅広い世代から支持されている。多数の公募川柳の選者・監修を務める一方で、子どもたちへの川柳教室やワークショップを開催。文化庁文化審議会委員。（社）全日本川柳協会会員。

## アクティブ・ラーニングと書写指導

連載  
第三回

連載三回目を迎えるので、今までの内容を振り返っておこう。第一回目は国語力から見た書写指導を、第二回は授業過程から見た書写指導をそれぞれアクティブ・ラーニングを視点とした改善について論じてきた。今回は、子どもたちが主体となる学習過程について「対話的に学ぶ」を軸に考えてみたい。

事例としては、第二学年に学年別漢字配当されている「岩」という漢字を取り上げた、「上下の文字の組み立て方を考える」四年生の授業だ。これは、書写の指導事項「文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと」から見ると四年生に適した教材である。既に日常的には読んだり、書いたりしている漢字だ。そこで、指導の際には、既知の文字の書き方「点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと」(新学習指導要領では「点画の書き方や文字の形」「点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと」)を振り返ったり、仲間とのグループ学習等を通じたりして、対話的に学ぶことが大切となる。

対話的に学ぶというと、子どもたちがペアやグループ、クラスで話し合う中で共通点や相違点、新たな発見を通じて学び合うことが思い浮かぶが、それだけではない。今まで自分が学んできた学習履歴に沿った既知や実態、先生や教科書等から示される新たな知識なども「対話」しながら学ぶことも大切だ。

全ての授業において、大切にしなければならぬのは指導事項の何を子どもたちは既に学び、知っているのかを明確にすることだ。学習の連続性に目をやらなければ、子どもたちの中に知識や技能の蓄積が妨げられるからだ。漢字学習は、読みが先行する。そして書きが続き、文

字の整いはさらにその後となる。そのため、二年生の配当漢字を四年生の書写の教材とすることになる。このような学習履歴の特色を踏まえた学習過程が必要となる。

さらに、書写の指導事項「文字の組み立て方」は全く新しい学習ではないということに留意する必要がある。既に基本点画の組み合わせにおいては文字が整えられることを学んでいるし、横画や縦画が複数並ぶ漢字の長さを正しく書く学習からは、画の長短のバランスを考慮する重要性を認識している。それは、横画を単純に組み合わせるのではなく、長短や方向が整えられなければ「三」という文字とは認識されない(現行学習指導要領解説国語編P・49)といったことだ。

また、文字の形の整え方も学んでいる。概形を捉え、同時に中心を捉える学習をしている。概形は画の長さや方向に左右される。概形の学習を通して漢字相互の似ている所を探すことで、部分になった時に生じる字形や点画の変化に気づく。例えば、山の概形は△であるが、岩になったときには縦画の真ん中が一番長いという特性は変わらないが三角形の形が扁平なものに変わるというように、概形の学習が「組み立て方」に繋がっている。

既習事項を振り返って対話的に学ぶ一方、既に使用している実態からも主体的な対話が必要となる。日常生活の中でどのように書いているのか、字体と字形の関係に配慮しながらも学習や生活の様々な場面を振り返る必要がある。具体的には、各教科等の学習ノートや作文等で各自が書いている漢字を見つけて取り出して「手本」や仲間の文字と比べてみることで、見つけ出すことが困難な場合やさらに現状の自分の文字の実態を認知するためには、その場で書いて比べてみる。これは、大村はま先生が昭和二十四年に戦争中に行き届いた教育を受けられ

なかった中学生に平板名の形を指導する際に用いられた方法でもある(「大村はま 国語教室」5 書くことの計画と指導の方法)平がなの形を整えるP・272)。

既習事項や自分の実態等を振り返って課題を見出すことは、導入学習の役割である(導入学習の役割と方法については、拙著「言葉の力」を高める新しい国語教室入門」5 導入学習を確立する」を参照頂ければ幸いだ)。自分の実態を振り返ることは共通の学習課題の設定に役立つが、同時に個別の課題を見出すことにも大いに有効で意欲を喚起し、学びに向かう力を醸成する。

ここからは、具体的な学習過程の展開の形で提示することにする(「先生、児童」学習活動でそれぞれ示す)。

振り返りをします。山という漢字はどんなことに気を付けて書けば良かったですか。

グループワーク(GW)で確認し発表。

並んでいる縦画に気を付けます。

中心になる画に気を付けます。

長く書く画がどれであったかを見つけてください。

それでは、ポイントに気を付けて書いてみましょう。

ワークシート(WS)に書く。その後、ペアで手本

と比べて良い点と直す点を朱書きで相互評価する。

点画に気を付けることができましたね。それでは、今度は石という漢字です。ポイントを発表

して下さい。

はらいの方向に気を付けます。

おれをつまく書きます。

おれをつまく書きます。

学習の進め方 子ども主体の学習過程

振り返ろう  
①

0 学習の準備をしよう。

1 学習のめあてと、今まで学んだことを振り返って確かめよう。

めあて  
上下の組み立て方を考えて書こう。

中心となる画や長く書く画を見つめるんだよ。

払いの方向や折れの筆使いを書くんだったね。



考えよう

2 書いたり比べたりして考えよう。

モデル

試し書き



モデルと、  
どんなところが  
ちがうかな。

組み立てると、  
どう変化するのがかな。



確かめよう

3 ポイントを確かめて練習しよう。



4 まとめ書きをしよう。

まとめ書き

みんなの  
よいところを  
共有しよう。

試し書きと  
比べてみよう。



いかそう  
①

5 他の文字や筆記具にいかして書いてみよう。

振り返ろう  
②

6 学習のめあてや自分の課題ができたかどうか、振り返ってみよう。

いかそう  
②

7 学習したことを、他の学習や生活にいかそう。



おぎやすじ  
尾崎靖二

甲南女子大学教授。教育委員会指導主事、四條畷市・交野市の小学校、交野市教育センター、中央教育審議会教科書専門部会（国語）委員、学習指導要領解説国語編作成協力者などを歴任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

▼山の場合と同様にGWとへア学習を行う。

今、書き方を振り返った二つの漢字を組み合わせる時、どんな漢字ができますか。

石山です。

山石です。

一字の漢字ですよ。

岩です。

そうですね。二つの漢字を岩の上下の部分として組み合わせるには、どんなふうにか書けばよいのでしょうか。

【めあて】漢字の上下の部分の組み立て方を考えて書こう！（板書）

先生、三年生の時に「漢字の組み立て方を学ぼう」という勉強をしました。

そうですね。三年生の学習を振り返ってみましょう。覚えていない人もいるでしょうから、教科書を調べましょう（※三年生の教科書を家庭や学校で保管しておく、場合によっては現三

年生から借用する）。「めあて」のヒントになることを見つけてみましょう。

▼GWで教科書の中から見つけたところに、付箋にポイントを書き入れて貼り、発表の準備をする。

目次のところで、一つの文字に見えるようにすることがポイントと書いてあります。

偏と傍の学習では、漢字どうしが譲り合わない組み合わせることができないということです。

譲り合つので、大きさや形が変わります。

組み立てには、左右や上下や内外があります。

そうですね。たくさんポイントを見つけてくれました。

岩は、上下の組み立てで山と石が部分となっていますね。どんなふうにか譲り合つて

大きさや形を変えればよいのでしょうか。よく

考えて一人一人毛筆で書いてみましょう。その後、GWで相互評価しましょう。

▼パーソナルワーク（PW）で考えながら書き、作品をもとに考えを交流するGWを行う。

今度は、四年生の教科書の手本と自分が書いた文字とを比べて、ポイントを整理しましょう。

▼教科書の手本と「ここがポイント」を参考に知識を整理する（先生は拡大したものを掲示する）。

それでは、今掴んだポイントを使って毛筆でまとめ書きをしましょう。書き終わったら、GW

でみんなの良いところを見つけて共有しましょう。その上で学習全体を振り返って、学んだことと自分の課題を書きましょう。

さらに、今の学習をいかして、岩のように上下の組み立て方をしている他の漢字を教科書の漢字一覧表から見つけましょう。その特徴を「なるほど書写教室」にあるように、高さの違いや大きさの違いなどを観点にして分類・整理しましょう。得た知識をいかしてこれからの日常生活において、上下の組み立て方をしている漢字をうまく書いていきましょう。

# Q. どうすれば筆を長持ちさせられますか?

## 1 書く道具に親しみと愛着を

わたしの「書の教室」では、『文房四宝』

といわれる筆・墨・硯・紙を自分の手で作る体験研修をしています。これまで、筆は豊橋筆(愛知県)や熊野筆(広島県)、墨は奈良墨(奈良県)や鈴鹿墨(三重県)、硯は甲州雨畑硯(山梨県)、紙は山中和紙(岐阜県)や阿波和紙(徳島県)などを訪ねて、自らの手で道具を作ってきました。「紙一枚でも大事に使わない」というのが参加者の感想です。

用材・用具の製造を体験することは、作る楽しさと同時に、文字を書く親しみと愛着につながります。子どもたちにも、機会があればこのような体験をさせたいものです。

## 2 筆の扱いは丁寧に

① 筆の部分の名前を知っておくと便利です。



② 筆を持つときは、軸の腹の部分を用紙に垂直になるように持ちます。



小筆の場合も同じですが、軸の腰の部分を持ちます。



注意 筆を前に倒さない。



注意 手首を曲げない。



## 筆について調べてみました

### 筆はいつごろ作られたのか

筆の歴史は古く、文献によると、中国の殷の時代(紀元前一五〇〇〜一二〇〇年)にその存在が実証されています。殷時代の甲骨文字は刀により刻まれたものですが、その下書きは筆で書かれていたと推定されます。現存する最古の筆は長沙筆といわれるもので、軸は木、鋒は兔毫で、長さは二〇cm程であったようです。



長沙筆(複製)

日本には、中国から仏典とともに筆が輸入され、正倉院御物として見られるのが日本最古の筆です。また、空海が唐から帰国(八二六年)して、筆の製造法を伝えました。当時の筆は、腰の部分が太く、鋒先は細い雀頭筆といわれるものでした。



雀頭筆(正倉院宝物)

### 筆の分類はさまざま

\*筆毫の材質や柔剛によって分類されます。主として獣毛が用いられます。



- ▲ 柔毫筆  
羊毛が多い。他に、兔・猫などの柔毛を用いる。
- ▲ 兼毫筆  
柔毛と剛毛を混合して用いる。
- ▲ 剛毫筆  
鹿・狸・馬などの剛毛を用いる。

他に、鳥の羽毛で作る羽毛筆、竹で作る竹筆、草で作る草筆、胎児の産毛で作る胎毛筆などがあります。これらは特殊な書を書く場合に用いられます。

③ 筆をおろすときは、穂の半分ほどを手で丁寧に揉みほぐし、水かぬるま湯につけて糊を取ります。小筆も同様です。



④ 墨を含ませるときは、おろしたところまでを硯の海でたっぷり含ませ、陸で穂先を整えます。書いている途中で墨をつぐときは、墨を含ませた穂を陸の上で軽く左右にすべらせてまっすぐに整えます。

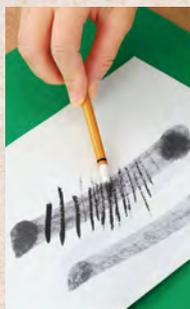
⑤ 穂が全ておりてしまったときは、穂全体に墨を含ませて、余分な墨を陸の上でしぼると書けないことはありません。しかし、どうしても扱いにくいときはキャップを切つてはめ込んだり、腰の部分を糸で巻いたりする場合があります。



⑥ 筆で書くときに大切なことは、穂の弾力を活かすことです。つまり、筆圧の使い方を身につけることです。



⑦ 筆を使った後は、墨のついた部分を水できれいに洗います。小さいペットボトルや瓶を使うと便利です。その後は反故紙などで水分をふき取ります。小筆は、穂先だけを水で洗って紙でふき取ります。



⑧ 筆を長持ちさせるには、使った後、丁寧に墨を取り除くことです。特に、墨のついていない部分と、ついていない境の部分をしっかりふき取ります。そして筆巻に納めておきます。筒の中に立てておくと、水分が軸に侵入して、腰の部分が弱くなってしまうます。



\* 筆の鋒の太さ（直径）と毛の長さの比によっても分類されます。



▲ 長鋒 直径の5〜6倍  
▲ 中鋒 直径の3〜4倍  
▲ 短鋒 直径の2〜3倍

筆の使い始めは短鋒がよく、次第に中鋒に変えるのが良いでしょう。

\* 筆の太さは、軸の直径によって区別し、号数で表します。

半紙に書くときは、中筆の4〜5号の太さが扱いやすいでしょう。



		軸の直径
太筆	1号	2.1cm
	2号	1.7cm
中筆	3号	1.3cm
	4号	1.1cm
	5号	1.0cm
	6号	0.9cm
細筆	7号	0.8cm
	8号	0.7cm
	9号	0.6cm

〈参考文献「書の基本資料」中教出版〉



みやもと のぶちか  
宮本 榮信 (墨童)

元千早赤阪村立千早小学校校長。「墨童書道会」主宰。大阪府教育委員会指導主事。大阪府内の公立幼・小・中の校長。大阪府市小・中学校書写教育研究会会長などを歴任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

# 「今日から変わる書写指導」セミナーレポート

春の訪れを感じる陽気となった3月18日、あべのハルカスにたくさん先生の先生がお集まりくださいました。



実技指導

**1** いよいよセミナー開始！まず最初に山内有香子先生が、教科書の題材を使った授業の手立てについて、丁寧に紹介してくださいました。

**2** 次に宮本榮信先生が「確かな書字力を身につけること」をキーワードに「書写の原理・原則」指導のあり方について、わかりやすく説明してくださいました。

**3** 質疑応答コーナーでは、書写の指導が苦手と感じている先生から「何とかしたいがうまくいかない！」「といった声が多数寄せられました。



たくさんのご来場、ありがとうございました！

今後もセミナー開催を企画・実施します。スケジュールなどの詳細は、追ってご案内します。



講話

## Messages!

### 宮本榮信先生から

書写の学習は、教科書の文字に似せて書くことでしょいか？「文字を書く」学習から「言葉を書く」学習へと視点を広げ、確かな書字力を身につける学びについて探ることが大切です。

### 山内有香子先生から

子どもたちが生き生きと意欲的に取り組む授業は誰にでもできます。教師の書写能力と授業力は、イコールではありません。ちよつとした知識と手立てをもとに、書写の授業の組み立て方や評価の仕方について考えてみましょう。

【プロフィール】神戸市立高津橋小学校教諭。神戸市立小学校教育研究会書写部幹事、兵庫県書写コンクール事務局などを歴任。平成26年、神戸市教育実践功労賞を受賞。平成28年、神戸市小学校授業マイスター就任。





## 指導のミカタ

「手本を見て真似るだけ」では、退屈な作業になってしまいます。  
子どもたちにワクワクさせる感覚を起こすには、どうしたらいいのでしょうか。  
現場の先生方の豊かな経験をもとに、ユニークで楽しい  
指導の工夫をご紹介します。

# 楽しく学ぶための工夫

兵庫県神戸市立高津橋小学校  
川岡嘉則先生



日本古来の手習いでは、師は、弟子一人一人に応じ、指導ポイントを誇張した手本を与えてきました。そうすることで、字形を学ぶだけではなく、筆使いや書くリズム、書くときの息づかいまで学び取っていききました。しかし、現代の書写学習の学習形態では、なかなか難しいものがあります。実技を伴う書写学習において、ただ教科書を見て書くだけでは、気づかなかつたり、気づいていてもどう書けばいいのか理解できないまま通り過ぎてしまったりすることや、理解できていても技能として体得しにくい点が少なくありません。

そこで、今回は少し視点を変え、題材の文字をうまく書くために必要な書写能力を高めるための取り組みを考えてみました。子どもたちにとってわかりやすく、楽しみながら学んでいける方法について、いくつか紹介したいと思います。

## 1 字形について

### 「双鉤填墨」と「福笑い」に学ぶ

#### ●手本を見て理解するために、手本を作る (三年「心」)

#### ●双鉤填墨 (そうこうてんぼく)

写真や印刷が生まれる前、中国(唐代)で盛んに行われた複写の方法です。複写元になる書の上に薄い紙を敷いて文字の輪郭を正確に写し取ります。できあがった輪郭(かご字)に塗り絵のように墨を入れていくのです。本来は、本の複写が目的でしたが、その過程で、点画の長短

や方向、接し方や組み立て方まで知らず知らずのうちに身につきます。とめ、はね、はらいは勿論のこと、筆圧や筆脈、書く速さやリズムも感じ取ることができ、双鉤填墨の行為そのものが書の学習方法として認められていきました。



#### ●福笑い

本来は、正月の遊びの一つですが、ここでは、半紙の上に切り取った点画を並べ、文字を完成させ、文字の分析、めあての明確化などに活用します。点画の位置や文字の中心など、子どもたちは、楽しみながら自ら学び、感じ取っていきます。



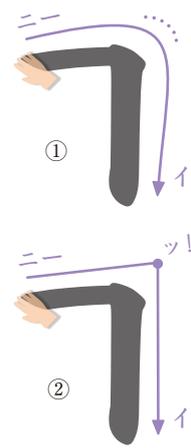
## 2 筆順・運筆のリズムについて

### ●体全体を使って点画のリズムを学ぶ

#### ●声に出して空書きする (三年「日」)

「日」の第二画目は①のように一息に書くのではなく、②のように実際の運筆のリズムで手を動かすようにしたいものです。空書きで筆順を確かめるときに、しつ

かりと運筆のリズムも学ぶことが大切です。



このとき、指導者は子どもたちの顔を見ながら、大きな声と動作で鏡文字を書くのが望ましいですが、これには少し練習が必要です。右手で普通に文字を書きながら、左手を線対称に動かすようにすると、案外簡単にできます。音楽の指揮者が両手で指揮をする時のイメージです。経験を重ねることで慣れ、いつでも鏡文字が書けるようにしたいですね。



「はらい」「はね」「てん」などについて、始筆・送筆・終筆を意識して空書きし、実際と同じリズムで運筆することが大切です。

筆順や運筆のリズムについては、デジタルコンテンツを活用して学習するのが正確で効果的ですが、普段から一点一面をおろそかにしない態度を養うためにも、指導者自身が、体全体を使って、大きな声と動作で空書きするのが最もわかりやすいといえます。

### 3 筆使いの工夫

#### 持ち方を工夫して

筆を正しく持たず、あえて「わしづかみ」にして書くことを学習に取り入れてみました。子どもたちからは、驚きと戸惑いの歓声が上がりましたが、今回の練習のための特別な持ち方であることをきちんと伝えてから学習に取り組みます。

これは、明治時代に盛んだった執筆法である「廻腕法」の良さが、子どもたちにも簡単に体験できる提案です。「廻腕法」については動画サイトなどでも見ることが出来ます。

#### 筆をしっかりと立てる

筆を立てて持つことで、自然と筆が立ち、運筆が自由になります。

#### 筆の軸を回さない

「折れ」「曲がり」では、筆がねじれ、半紙から大きな抵抗を受けます。つい、この力に負けて筆を回してしまうことが

あります。しかし、捻れた筆が元に戻ろうとする力をうまく活かすことで毛筆独特の「はね」や「はらい」ができるのです。

#### 腕全体を動かして書く

腕全体を動かして書くことは、点画をしっかりと意識することにつながり、正しい文字を丁寧に書く書写学習のねらいとも合致しています。

この三点をねらって、書写学習に「筆のわしづかみ」を取り入れてみました。子どもたちからは、意外な筆の持ち方に歓声があがるとともに、慎重に取り組み姿が見られました。

\*はじめは、「えっ」と思ったが、意外とうまく書けた。  
\*筆を「ぐいっ」と大きく動かしたら、自然と「折れ」や「曲がり」が書けた。  
\*細かいところはうまく書けない。  
といった感想が子どもたちから得られました。筆が半紙から受ける抵抗に負けずに、しっかりと運筆するという点では、成果が得られました。



### 4 調和を考えて書くことについて

#### 「デュエット」音楽の合唱に学ぶ

(相手に合わせてハモるように書く)

●ペアで一つの文字を書く(四年「林」)

#### 一画ずつ交代して書く

文字通り一画ずつ交代で書きます。前の人を書いた上に自分が書き足します。

#### 偏と旁を交代して書く

互いに「きへん」を書いた後、交換します。そして右半分を書き加えて文字を完成させるのです。



これらは、今ある点画に書き足していく学習活動です。実際に書く前に、次の点画はどう書いたらよいか考えなくてはなりません。しかも、そこには友達の手で書いた点画に付け足すという緊張があります。張り詰めた緊張の中でしっかりと考えることで、点画の長短や組み立てなどの理解が深まり、身につけていくのです。名前も二人の名前を合わせた名前を書いて楽しい作品に仕上げます。

#### ●ペアで一つの字句を書く(五年「実りの秋」)



一文字ずつ交代して書くことで、漢字と仮名の大きさの違いや文字の配置について考え、意識して書く学習です。全く個性の違う子どもがペアになった時、戸惑いながらも相手に合わせた文字を書くよう努力します。そのとき、一人一人の書写能力の幅が広がっていきます。

書写学習は、「ただ文字を書く」のではなく「正しく文字を書く」「丁寧に文字を書く」でなくてはなりません。さらに、「次の一画」、「次の一文字」を意識し、考えて書くことから「全体を見据えて書く」ことに発展させ、紙面の大きさや目的に応じて、調和よく文字を書く力を追求していくことが大切です。

情報があふれる昨今ですが、安易に流されることなく、児童の実態を把握し、目の前の児童に合った指導法を工夫して実践していくことが大切だと思います。



## 楽しく学んで 苦手意識をなくそう

和歌山県那智勝浦町立下里小学校  
温水起美好先生

芸術科書道では、技術の上手・下手はどうしても避けて通ることができませんが、小学校における国語科書写の学習は、まずは楽しく取り組めるよう授業を工夫改善することが大切であると考えます。ここでは、「風」の指導例を紹介しました。六年生で、二時間扱いで授業を構成しました。

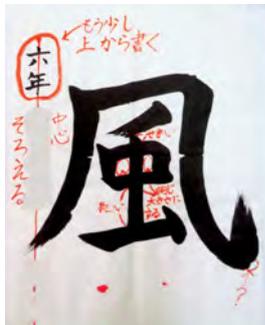
### 第一時

#### 1 学習のめあてを確かめる。

本時の題材が「風」であることを知り、穂先の動きと「かまえ」と中の部分の組み立て方に注意して書くことを確認する。

#### 2 試し書きをする。

自分の課題を見つめる。教科書の手本と比べて、自分で課題を見つめる。



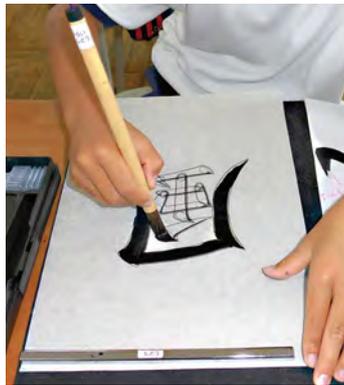
#### 4 練習する。

「風」をかき書きで練習する。

#### 5 まとめ書きをして、名前も書く。

#### 6 ふり返る。

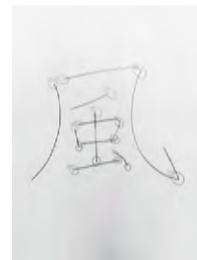
「風」の試し書きと比較し、めあてが達成できたか、自己評価する。



### 第二時

#### 1 「風」の分解文字を作る。

教科書の手本を見ながら、筆順通りに分解文字を組み立て、「風」の字を完成させる。



●「骨書き」ワークシート

毛筆書写の自学の「つ」として、「かき書き」「骨書き」のワークシートを、半紙に印刷したものを使います。教科書の手本と自分の字を見比べさせながら、直したい箇所を書き込ませると、手本を細かくしつかりと見る習慣がつけます。

#### 2 本時の学習のめあてを決める。

- ・左払いの穂先やそりの筆使いに注意して骨書きをする。
- ・「かまがまえ」の中の字がぶれないように注意する。
- ・分解文字の組み立てで気をつけたこと、始筆・送筆（そり）・終筆（はね、はらい）などの筆使いに注意する。

#### 3 「風」を骨書きで練習する。

そりの筆使いに注意して書く。

#### 4 「風」のまとめ書きをする。

#### 5 ふり返る。



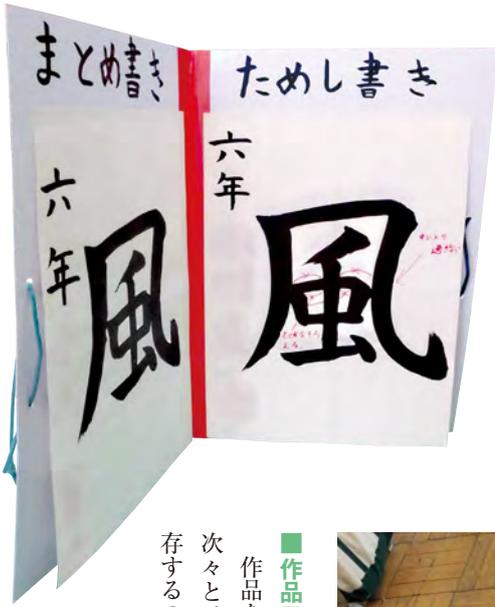
試し書きとまとめ書きを比較し、単元のめあてや自分の課題が達成できたか、自己評価したり相互評価したりする。

### ■ 分解文字の組み立て

分解文字は、手本をいかに正しく見るとかということ自ら学ばせる手段としては、大変有効です。筆順通りに、手本の一画一画をしつかり見ないと、正しく整った文字は作れません。準備を含め手間はかかりますが、それだけの学習効果は得られます。

すべての時間で扱う必要はありませんが、その学年の早い段階で、手本を正しく見る目を養わせるには効果的です。ひたすら練習させるのではなく、時には違った方法を用いて、楽しく学習させることも大切だと考えます。

今回の分解文字は、学習のまとめとして作品ファイルの表紙に貼って完成としました。



### ■ 自己添削

試し書きに赤ペンを入れることを、私のクラスでは「添削する」と呼んでいますが、何枚も練習するだけでは自分の欠点にはなかなか気付かないものです。

この自己添削は、毎時間一枚目を書いた後に行くと、自分の欠点に気付かせることができるうえ、子どもたちも積極的に取り組むことができるので、大きな効果が得られます。



### ■ 作品ファイル

作品を試し書き、まとめ書きに分けて、次々と重ねて貼っていきます。作品を保存するのに便利です。

### ■ 筆洗用ペットボトル

子どもは、学習後の筆洗いが不十分になることが多いものです。そこで、広口のペットボトルを集めて常時教室に置いてあります。

子どもたちは、ペットボトルの水がきれいになるまで水を2〜3回取り替えるながら筆を洗います。汚れが目で見え判断できるので、墨の洗い残しはほとんどなくなりました。筆を含め、書写用具を大切に扱うことも学びの一つと考えています。

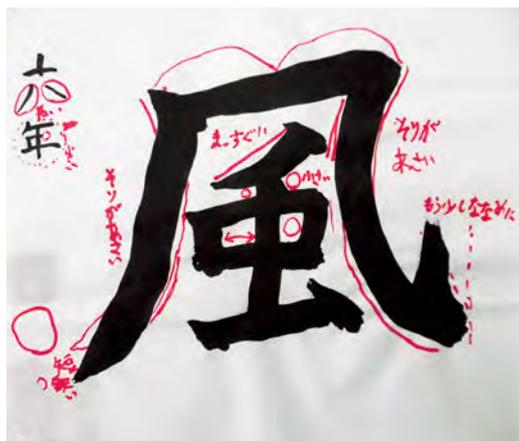


### ■ 最後に

冒頭でも述べましたが、たとえば書写や図工のように実技指導が必要な教科は、子どもによって上手・下手がはっきりしてしまいがちです。しかし、それだけで評価していたのでは、苦手意識をもった子どもを作り出してしまいます。そうならないための一つの方法として、楽しく学ばせる工夫を考えました。楽しく学んでいるうちに、一つでも二つでも身に付けてくれるものがあればいいと思います。絵なども書と同様で、上手・下手ではなく、楽しんでやっているうちに好きになってほしいと願います。

書写の学習を進める中で、良くないところを直すことも必要ですが、それ以上に良いところを大きく褒める方が力を伸ばすことにつながります。

また、自己添削することで、自分の欠点を見つけ出す力をつけていけば、教えられるよりも学びは大きいと考えます。自己評価・自己添削ができるようになれば、随時、相互評価・他者評価の機会を増やすことで、より学習効果が上がります。





# 別人になりきって書こう

大阪府枚方市立蹠陀東小学校  
藤井美和子先生

## 1 「臨書」を基点とした 実践的授業研究（第四学年）

書作品を制作することは自己表現の一つであり、自分の中にある思いや構想が手や筆を介して紙面に出てくることによつて作品ができていくと考える。しかし、いざ書いてみるとなかなか思い通りにならず、自分の思いと表現技能とのギャップに苦悩している。

自分の表現技能の幅を広げるためにはどうすればいいか。その方法の一つが「臨書」である。古典作品の文字の構図や余白、筆法を写し取る作業をしていく中で、古典作品の美しさの所以やその特徴、作者の性格や書かれた時の気候など、様々なものを想像しながら古典作品に近づけていき、普段の自分にはない表現方法をも身につけていく。そして、古典の基本の上で自分の表現を重ね合わせ、作品制作に臨んでいる。

臨書は地道な鍛錬であり自己表現からは遠いものと思われがちだが、書作品制作には欠かせない基礎であり、自分の中の表現や考え方を広げていけるものであると考えている。

## 2 単元について

本単元は教科書「部分の組み立て方（上下）」をもとに構成している。「雲」という上下の部分の組み合わせで構成された文字をどのように書いていくのかを「雨」と「雷」を比べて児童自らが違いに気づ

いて法則化し、ほかの文字にも生かすという単元である。教科書の学習を終えた後に古典作品に目を向け、古来より伝わる文字の学習を重ねることで、その普遍性や変わらぬ特徴を知り、その一方で各々の作品の個性や独自の美しさに触れ、書作品の持つ世界観を広げられるように本単元を設定した。

単元の構成（全3時間）		
第3時（本時）	第2時	第1時
<p>◆ 書いてみたい手本を選び、特徴や性格を考えて、半紙に書く。</p>	<p>◆ 教科書の手本を見ながら半紙に書く。 ◆ ②の特徴や性格について話す。</p>	<p>◆ 文字の特徴や構成を捉える（硬筆）。 ◆ ①の特徴や性格について話す。</p>

### 題材観

古典①は弾力豊かで、太細・強弱の変化が多いのが特徴的であり、児童の楷書概念を変化させることに適した題材であると考える。一方、古典②は縦長背勢で建築性豊かな構造となっており、古くから楷書の極則として用いられている。二つの古典を題材に、印象や特徴、書き手の性格などを想像しながらそれを真似て書くことで、児童自身の表現の幅や、今まで学んできた楷書の世界を広げられるようこの題材を選んだ。

### 児童観

本学級は、毛筆学習に意欲的に取り組む児童が多い。書き終えた後に自分の注意点を手本に書き込んだり、範書時と一緒に手を動かして練習したりしている姿も見受けられる。手本に忠実に書く児童もいれば、その単元のめあてを意識しながら各々の性格がよく出た文字を書く児童も少なくない。しかし、手本の扱いについては様々で、じっくり見ながら書いている児童もいれば、配布された手本は床に置いたまま自分の感覚で文字を書いている児童も見受けられる。他者の文字のいいところを認め合える一方で、手本から何をどのように学ぶかということに対する重要性の意識が、児童の中に十分に育っていないことも課題の一つである。

### 指導観

手本を見ながら文字を書くとき、文字には必ず個性が出る。その個性的な文字が客観的に整った美しい文字と捉えられるためには、字形や筆圧、線質に何らかの法則や、汎用性があると考えられる。小学校書写においては教科書の手本を題材として扱うが、この学習をもとに古典に触れ、古典においても同じ法則をもつて書かれているということや、古来より伝わるそれぞれの文字がどのような特徴や美しさを持っているかを知り、書き手の性格などに想像を膨らませながら、別人になりきることで新たな気持ちで手本に臨ませたい。

【本時の目標】 手本の特徴を分析し、別人になつたつもりで書く。  
 【本時の展開】 45分

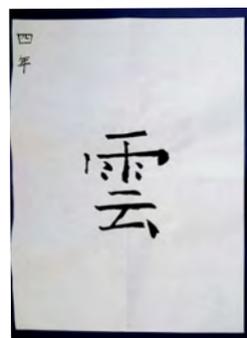
15分	25分	5分	形態
まとめ	展開	導入	
個人	個人	一斉	形態
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1枚を選び、名前を書く。</li> <li>● 振り返りを書いて、作品とともに提出する。</li> <li>● 後始末</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 半紙に書く(1枚)。</li> <li>● どんな目標で書いているかをペアで話し合い、お互いにアドバイスをします。</li> <li>● アドバイスをもとに、半紙に書く(1枚)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 挨拶、準備</li> <li>● 「別人にならなくて書く」というめあてを確認する。</li> </ul>	主な学習活動
		<p><b>め</b> 手本の特徴を考えながら、別人になつて書いてみよう</p>	指導上の留意点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 特徴が出ている作品を紹介する。</li> <li>◆ 線の太細、長短、白い部分を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 半紙3枚ずつ配布する。</li> <li>◆ いつもと違って「手本」を選ぶことや、前に見たものであることを伝える。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 特徴をつかめているものを選ぶように伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 手本を選びきれない児童や、性格設定に悩んでいる児童に声かけをする。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>①：選択した手本の記号</li> <li>②：文字から想像される性格</li> </ul>	

児童による分析

【作品(古典②)】



【作品(古典①)】



成果

■ 前時までに古典を見せていたこともあり、親しみをもって取り組むことができた。

■ 手本分析は、普段から取り組んでいることもあり、戸惑いなく書くことができた。

■ 手本を見て書くという普段と同じ活動だが、古典に対する新鮮さもあり、いつもよりよく見て書いていた。

■ 初めての臨書であったが、仕上がった作品を見ると、線質などは難しいが何となく雰囲気を出しているものが出ていた。

課題

■ 別人になつて書くというテーマのもとに、自分の性格設定を考えると活動において、文字から感じ取れる性格を設定した児童もいれば、自分の好きな性格を設定した児童もおり、その主旨が伝わりにくかった。実際に書いているうちに性格というテーマから離れてしまうため、性格を意識させるような活動や声かけを継続的に入れていく必要がある。



評価の観点

- 古典を見て、その文字を書いた人がどんな人かを想像しているか。
- 自分で選んだ手本の線質や字形について、自分なりに分析できているか。
- 自分で想像した性格や分析した文字の特徴を考えながら書いているか。

POINT!

実践のポイント

手本について

ワークシートと手本は、B4用紙1枚(両面印刷)にまとめた。実際に書くサイズより手本を小さくしたのは、机上を整理しやすくするだけでなく、文字の中で各線

がどの程度の太さを考えながら書くという体験をさせたかったからである。また、ワークシートは、拓本で印刷された法帖とともに、白黒反転させたものも隣に載せる

## 関岡猪蔵先生を偲んで

# 一期一会

書写を好きにさせてしまおう

関岡先生の子

高知市小学校元校長  
濱田 一郎

「書写の教科書は見ただけで書きとるな」「こんな気持ちのよいお手本はめったにない」と、関岡先生の書かれた文字を見るなり担任の子どもたちの笑顔に引き込まれてしまいました。

県書写教育研究会の講師としてお招きすると今日のお話の続きを是非にとの声が大きく、いつの間にか高知県のおかえ講師になりました。十一年も、一つの講演でも行き届いて分かり易く、先生のお人柄あふれる明るい口調で大会を盛り上げて下さいます。中味も豊かな研鑽を積まれたすどい実績から生まれる内容にうっとり拝聴しました。

三十一回大会では講師授業までいただき、書写を学ぶ楽しい雰囲気まで味わわせていただきました。

永遠の心の支えアイドル先生

淡路市小学校元校長  
隈下 妙子

「命のある限り淡路に來させてもらいます。」と淡路の書写に全身全霊注いでいただきました。褒めて伸ばすことをモットーに、い

つも穏やかに優しく接してくださった先生に感謝しかありません。怒った顔など似合わない先生でした。私の学校が式典をする折には、落款印と朱肉を持参し、色々なアイデアで懇切丁寧に教えてくださったことなど忘れられないことばかりです。十五年位前、淡路のホテルで個展を開いていただき、書への思い、楽しさを教えていただいたのが昨日のことのようです。我が家にも折々書を送っていただけ、家宝にしています。〈なにくそ〉永遠の心の支え アイドル先生 今も見守ってくれているようです。



関岡先生、  
ありがとうございました

日本文教出版「小学書写」教科書編集委員  
宮本 榮信

関岡先生にはじめてお会いしたのは、今から二十一年前、教科書の編集会議のときでした。当時、先生は七十才を超えておられました。お話しされる一言一言には熱い思いがあふれていました。以来、「書」のことはもちろん、教科書づくりの手ほどきをいただいたことは、私の一生の宝物です。

先生は、子どもから高齢者を対象に「生活

関岡猪蔵先生のご逝去から、早いもので一年が過ぎました。ご指導を仰いだ日々と、その偉大な功績、温かいお人柄を偲びつつ、ご縁の深かった方々との新たな絆を深める機会となれば幸いです。

を楽しむ書」をたくさんご執筆されました。先生の魂がこめられていたように思います。今、私はご息女の関岡昌子先生にお導きいただいています。ありがたいご縁です。書写の教科書として、関岡先生の理念をきちんとつないでいきたいと思っています。



思いやりの心——関岡先生

大阪書籍株式会社 元編集部長  
赤穂 光男

二十年前、関岡先生の公開授業を拝見して、先生が子どもたちに生きる力と喜びを、書くことを通して教えてくれたのではないかと思います。

机間指導で、「おつ、上手に書けたね」と言われて、その子どもにも、皆に見せるよう指示

される。子どもは、「なんで私が」という顔つきで、最初の書とほめられた書を胸の前に掲げる。すかさず、「最初と比べてこんなに上手になった」とほめられる。一瞬、子どもの顔がくずれる。こうして何人もの子どもを引き上げられる。

最後に、「今日、書いた字を家の方に見せてください。きつとびっくりして喜ばれるから」と言いつて授業を終えられる。人を思いやる心が伝わる授業であった。

関岡先生との思い出

大阪書籍株式会社 元営業課長  
高津 征郎

私が関岡先生の講演会や研究会にお供で一緒にさせて頂いたのは、兵庫県の担当になってからである。

特に忘れられないのは、研究会が終わったあと大雪になり、池田師範の後輩校長と城崎の三木屋で飲まれた時、雪見障子越しに見る雪景色の見事さを喜ばれる関岡先生の無邪気に楽しげな様子である。

また、阪神淡路大震災の直後の事である。大変苦労して出かけられ、泊まれた宿で大好物の蟹を食べられた時のことだ。他に客もない旅館が出した大量の蟹を目を白黒させて「こんなに美味しい蟹を、こんなに腹いっぱい食べさせてもらったのは初めてや」と大変喜んでおられたお顔も忘れられない。

## 未来へつながる「今」

—— 日本文教出版「小学書写」教科書編集委員

### 関岡昌子

「生涯現役」を貫徹するには、本人の強い精神力が必要であることは勿論のことですが、何よりもまわりの「人間愛」に支えられてこそ自分の生きる力が発揮、持続できるものだということを、父（私にとりましては主人の父であり舅にあたります）は家族に身をもって示してくれました。おかげさまで父の人生目標「生涯現役で百才まで生ききたい」を見事に達成しまして、一〇〇年と二十一日の生命を全うし、平成二十八年四月二十日に逝きました。生前中多くの皆様から「人間愛」をいただきましたことに、家族一同厚く深く感謝、お礼申し上げます。誠に有難うございました。

九十九才まで要請を受けました小・中学校への指導実践と、それを通して児童や先生方との一期一会を、父はいつも楽しみにしていました。授業をお引き受けするにあたり、事前の段取りを欠かすことなく熱心に取り組んでおりました。文字に対する関心をいかに高めるか、文字感覚を豊かにするためにはどう

説明すれば良いのかなどを考えながら、種々の文具と用紙を工夫して教材を作っていました。

九十才を過ぎてからの父は、授業導入にはいつも「このおじいちゃんは何才に見えますか？」という質問から始めていました。児童が「〇〇才」と自分の年齢よりも若く答えてくれることを当然のように想定していました。導入のまとめとして「筆記用具を大切に扱い、より美しい文字を書けるように努力・学習すれば、健康で楽しく幸せな人生を送ることができます。書写書道は健康長寿のエネルギーです」と自慢げに結んでいました。

「書写を指導する」技能的な面は、指導の基本であり重要なことですが、常々「書写で指導すること（を）から「で」への取り組みの必要性」を唱えていました。平素の学習の中で、集団の中に入りきれない児童や、学力が追いつかずに学習意欲を失っている児童を直感的に察知することにたけた父でした。また、児童が授業の中で発信する何かを素早くキャッチすることがとても上手でした。担任の先生とあらかじめ打ち合わせをすることもなく「つかむ」能力にたけた父でもありませんでした。まさしく「書写で指導する」という「で」の実践を示し、担任の先生から賞讃、感動の言葉をいただいております。

「書写は他教科と異なり、正解というものは

少なく、一単位時間（四十五分）の授業の中で児童の集中と充実がいかになされたかが勝負である。他の児童との相対的評価ではなく「自己力向上」を認め、そのことを第一義にほめることができる素晴らしい教科である。またそのようにしなければならぬ」と言っていました。「ほめ育てる」が実践できる教科であると。

父は、五十数年の長きにわたり、毎日小学生新聞の書写の部選者をしておりました。その編集担当係の方から父への甲斐の言葉をいただきました。文面の中に「児童の文字について年齢に応じた講評をいただきました。元気の良さやお題の選び方もほめていただくなど、子どもに合わせた温かい眼差しがいつも印象的でした。先生のお言葉に勇気づけられ、書の道への愛着を深めた読者も数知れないことでしょう」としたためていただきました。

「目習い（鑑賞する実践）」においては、正しい文字、美しい文字を「見て書く」。続いて集団で正しい字形作りについて「話し合う」共有時間を児童が作り出していくために、人の話をよく「聞き習う」学習へと導くように、良い接着力となる指導者にならなければいけないと言っていました。書写は「書く」「話す」「聞く」の三要素が四十五分の中で実践できる教科であると。

家族からは「おやじは書道以外の話はないのか」と生涯言われていました。主人の兄弟（父の息子たち）が訪ねてきたときも書道の話だけして、その後は背を向けてひたすら字を書いています。長きにわたり大勢の方が父を訪ねてくださいました。

「先生、右手が痛くて…年ですね。」

「そりゃえらいこっちゃ。左手でどんな字を書けるか楽しみや。」

「子どもが受験で大変で。」

「そりゃけっこうなこっちゃ。あなたも書道頑張るんやで。」

「主人が転勤で海外へついでいきます。」

「そりゃえいこっちゃ。向こうで書道を広めてや。」

何から何まで何としても継続一筋でした。

最期に筆をとったのは、亡くなる一か月前、ひかりのくに株式会社岡本社長様に郵送致しました「敬天愛人」と書いた色紙と、百才を迎え越し方を振り返りながらも、まだまだ書写書道教育の指導に取り組みたいという心情を語った手紙、便箋三枚でした。





連載  
第九回

コンドウアキの  
書写的  
生活

旅に出ると、誰かに手紙を出したくなるものです。そして旅先から手紙をもらうのは、特別に嬉しいもの。旅行中に時間があったら、帰宅を待つ家族や親しい人へ便りを書いて、送ってみてはいかがでしょう。

コンドウアキ  
キャラクターデザイナー・イラストレーター・作家。「リラックマ生活」シリーズのほか、「うさぎのモフィ」、「みかんぼうや」シリーズなど著作多数。文具メーカー勤務を経てフリーとして活躍する傍ら、二児の母として育児に奮闘中。

Produce:STORE Art Direction & Design:ad detective QUEST

line 線

2017 No.9

日文教育資料[小学校書写]  
平成29年(2017年)8月10日発行  
編集・発行人 佐々木秀樹  
発行所 日本文教出版株式会社  
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

題字・新谷泰鵬

CD33366

日本文教出版 株式会社  
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171  
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16  
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618  
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14  
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938  
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B  
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261  
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1  
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690